

理研 RIBF 研究会 開催申請書

(提出先: mini-ws@ribf.riken.jp)

申請日 2010 年 11 月 22 日

申請者氏名 吉田賢市

所属 仁科センター中務原子核理論研究室

郵便宛先 (〒 351-0198)

埼玉県和光市広沢 2 - 1

電話: 048-467-4068 Fax: 048-462-5314

E-mail: Kenichi.Yoshida@riken.jp

タイトル	電磁気モーメント・核力反応による Island of Inversion の理解にむけて
タイトル(英文)	Further investigation of 'Island of Inversion' via nuclear moments and inelastic reactions
開催予定日	2010 年 12 月 20 日 (月) - 21 日 (火)
目的・趣旨	<p>これまで Island of Inversion の研究では、理研で行なわれた B(E2) の測定等を契機とする、クーロン励起反応等を実験手段とした基底回転帯 (0+, 2+, 4+) のスペクトル・B(E2) の研究が中心的であった。一方、理論的には大規模 shell model 計算・Beyond mean field 計算により、多数の励起状態 (励起モード) の存在や基底状態の電磁気モーメント等も調べられており、対応する実験情報は Island of Inversion での 1 中性子軌道など重要な情報を含んでいると考えられる。</p> <p>近年、(p, p') 実験など、クーロン励起以外のプローブによる実験により、Island of Inversion の様々な性質が明らかになりつつある。そのため、従来の核構造研究にとどまらず、反応機構の理解など、様々な新しい問題が存在する。</p> <p>そこで本研究会では、Island of Inversion 核の電磁気モーメント、非弾性散乱に焦点を絞り、関連する実験・理論研究者が集い、これまでの知見と今後解決すべき物理的問題・技術的問題に関して議論を行なう。具体的には</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) モーメントを通じたシェル構造、変形の理解と課題 2) 非弾性散乱・分解反応によるシェル構造の理解と課題 3) 微視的核構造理論と実験を橋渡しする反応計算の整備 <p>をテーマとして講演・議論を行なう。研究会の後半では、テーマ間で共通した理解・課題を得るために議論の時間を設ける。</p>
世話人の氏名・所属	吉田賢市 (理研)、武内聡 (理研)、木村真明 (北大)
予定参加者	下田正 (阪大)、中村隆司 (東工大)、鈴木宜之 (新潟大)、宇都野穰 (原研)、八尋正信 (九大)、蓑茂工将 (九大)、松本琢磨 (北大)、青井考、上野秀樹、武智麻耶、日野原伸生 (以上理研)
希望予算額	(内訳)

	17万5千円	交通費：14万円 （下田：28,680円、中村：920円、宇都野：8,120円、 八尋：33,640円、菱茂：33,640円、松本：34,740 円） 宿泊費：1万5千円（さくらハウス：5人分） コーヒー・お茶代：2万円
--	--------	---

理研 RIBF ワークショップ 開催報告書

(提出先 : mini-ws@ribf.riken.jp)

提出日 年 月 日

氏名

所属

電話

Fax

E-mail

ワークショップのタイトル		
HP address	http://	
開催日		
開催内容と開催によって得られた(得られる)効果		
世話人の氏名・所属		
参加者の氏名・所属		
かかった経費(理研支出分)	(合計)	(内訳)

* 必要に応じて添付資料をつけてください。